

谷津干潟

(やつひがた)

位置：北緯35度40分、東経140度00分／標高：0m／面積：40ha／湿地のタイプ：干潟／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：千葉県習志野市／登録：1993年6月／国際登録基準：3／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：干潟



谷津干潟の風景



干潟の清掃／レンジャーによる干潟体験／春に南の国から飛来するシギチドリ (左から右へ)

湿地の概要：

谷津干潟は、東京湾の海岸線から約2km内陸に位置する、40ヘクタールの砂質・泥質干潟である。東京都心から鉄道で30分ほどの近さにある住宅地区で、マンションや学校、高速道路などに囲まれ、東と西の2本の水路で東京湾とつながっている。干満によって潮の出入りがあり、満潮時には水深約1mの海面となり、プランクトン、エビ、カニ、貝、ゴカイ、魚など数多くの生きものが生息している。また、谷津干潟は、渡り鳥であるシギ・チドリ類にとって、渡りの途中の栄養補給と休息をとるための中継地として重要な役割を果たしている。

都市に残された干潟：

かつて東京湾一帯には、日本でも有数の広大な干潟が広がり、谷津干潟周辺では海水浴や潮干狩り、谷津遊園により東京周辺のみならず関東一円から行楽客を集めていた。その後、近代化の過程で周りは次々と埋め立てられ、工業用地、住宅地、道路などへと変貌した。そうした

開発の歴史のなかで、湾奥部に地元の熱心な保護活動によって残されたのが谷津干潟である。

1988年に国指定鳥獣保護区となり、1993年にはラムサール条約湿地に登録され市民が気軽に利用できるよう園路が整備された。1994年には観察や教育の拠点として自然観察センターが設置された。2010年度から2019年度まで、鳥類の生息環境の改善等を目的として、干潟の嵩上げなどの保全事業が実施され、現在モニタリングが行われている。

谷津干潟に集う人の輪：

習志野市は干潟の保全には市民の参加と協力が不可欠と考え、自然観察センターを拠点に市民ボランティアを受け入れ、環境管理や展示物作成など活発な活動を展開している。また、小・中学校を対象にした「谷津干潟ジュニアレンジャー」やユース世代の「谷津干潟ユース」などの育成事業も行っている。ラムサール条約登録日である「谷津干潟の日」には、地域協働による行事を企画運営し、干潟を守

る人の輪を広げている。

【湿地環境教育】 自然観察センターでは、小中高、大学、市民団体などを対象に、干潟をフィールドにした干潟の生態系や保全を学ぶ体験プログラムを実施している。鳥の彫刻や手作りおもちゃ、紙芝居など独自の教材開発にも取り組んでいる。また、1998年に豪州ブリスベン市と習志野市は湿地提携し、渡り鳥や湿地保全についての情報交換や互いの湿地を訪問し人的交流を深めている。

●関係自治体

習志野市役所 Tel: 047-451-1151

